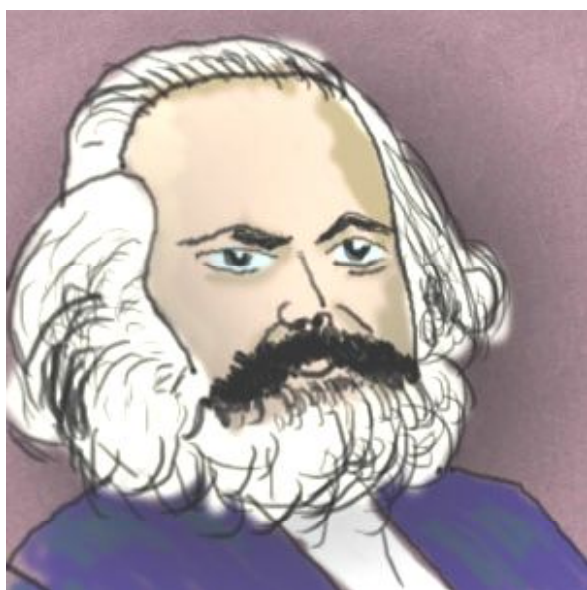


石川先生による不破哲三著書の解説学習会

『資本論』はどのようにして形成されたか

講師 石川康宏氏（神戸女学院大学教授）

2012年 3月20日（火・祝）
12:30受付、13:00～16:30講演
和歌山市勤労者総合センター



主催：和歌山県勤労者学習協会

マルクスと『資本論』を最新の研究にもとづいて

神戸女学院大学・石川康宏

和歌山のみなさん、こんにちは。

【日本の現実を資本主義の根本から】

3・11後の日本社会の動きに、私はあらためて財界・大資本による利潤第一主義のすさまじさを見せつけられた思いがしています。栄養失調が多発し、数千の「孤児」が生まれている震災被災地への救済・復興支援の貧しさ、東北を起点とした「構造改革」の新たな推進への意欲、「復興」を口実とした庶民増税と大資本への減税、原発推進政策へのしがみつきなど、驚きは数え上げればきりがありません。

しかし、私は同時に、いまの日本社会の動きに新しい希望と可能性を見てもいます。その象徴は「脱原発」「原発ゼロ」をめざす、これまでになく多くの市民の連帯した取り組みの発展です。それは京都市長選にみられるように、「政治をかえよう」という大きな流れをつくりうるものになっています。

この両面の事情から、私は、資本主義社会のしくみを根本からとらえることで、問題を是正する取り組みの方向を共有することが、ますます大切になっていると考えています。そして、それはマルクスの新しい出番を示していると思っています。

【光るマルクスの資本主義発展論】

マルクスはたくさんの研究をしましたが、中でも、いま特に光を増しているのは、資本主義の発展にかんする次のような根本の指摘だろうと思います。

- ①資本主義の社会は、私的な利潤追求を原動力とする資本の経済活動をいちばんの基本とする。
- ②その原動力のもとに、資本は新しい製品（たとえばパソコン、ケータイ、スマホ等）を次々つくり、社会の生産力を飛躍的に発展させる。
- ③しかし、利潤第一の活動は、同時に深刻な社会問題（たとえばワーキングプア、中小企業いじめ、環境破壊、放射能汚染等）を生む。
- ④その中で、労働者・市民は身を守るためのたたかいに立ち上がらざるを得ず、それがよりましな資本主義にむけた改革の取り組み（たとえば貧困の克服、「原発ゼロ」への取り組み等）をつくる。
- ⑤それらの資本主義の枠内でのたたかいの積み重ねが、次第に「私的な利潤追求を原動力とする」こと自体の転換（未来社会への移行）という問題意識を成熟させる。

【10年ほど前の『資本論』講座では】

和歌山のみなさんといっしょに、長期の講座で『資本論』をくりかえし読んだのは、10年ほど前のことになるかと思います。今回、あらためてみなさんと学んでみたいのは、不破哲三氏の『「資本論」はどのようにして形成されたか』（新日本出版社）です。

不破氏の研究は、以前の講座でも重要な指針として活用させてもらいました。

『資本論』の文章を追いかけ、そこに解説をくわえることを基本にしながら、もう一方で『資本論』2・3部はエンゲルスが編集したが、内容は必ずしもマルクスの経済学探求の到達点を正確に示すものにはならなかった——現行版『資本論』の全体をマルクスの到達点だとして、いわば「絶対視」して読むことはできない——そういう問題意識を共有することにもつとめました。

それは、「恐慌の運動論」の欠落と第2部の構成、再生産論の文脈の混乱、その後の研究に照らした土地所有論や信用論の未熟さなど、『資本論』の具体的な読み方の注意にもつながるものでした。

【今回の研究が示していること】

しかし、今回の『『資本論』はどのようにして形成されたか』の到達点からみると、それはまだ、マルクスの経済学探求史の全容を詳細につかみ、その高みから現行『資本論』の命題や構成の諸問題を全面的にとらえかえすものにはなっていませんでした。いま、それが実感できるのは、この本が、大量の『資本論』草稿を執筆順に吟味することで、いつ、どの論点で、マルクスの認識にどのような発展があったかの究明を大きく進めるものになっているからです。

その作業の結果、この本は、次のような大きな2つの意味をもつように思います。

1つは、これによって、現行『資本論』の全体を経済学探求のできあがった最高の到達ととらえるのではなく、そこにまぎれこんでいるより未熟な認識を正確に腑分けし、それによってマルクスの最高の到達をより厳密に、いわば不純物なしで理解することを可能にしているということです。

もう1つは、マルクスが執筆しようとした経済学の全体系や時々重視された方法論が、最終的に『資本論』全3部（学説史をふくめて全4部）の構成や方法にたどりつく過程が明らかにされ、それによってマルクスによる経済学探求の全体構想にしめる『資本論』の圧倒的な地位が明らかにされているということです。

他にも、いまの私には理解が届いていない大切な問題があるかも知れません。そこは、みなさんとの学びの中で、さらに深めていきたいと思っています。

※ ※ ※ ※ ※

現代の情勢を切り拓くにふさわしい知的力量を身につけるために、ぜひともたくさんの方々に、お集まりいただきたいと思っています。和歌山の方々の熱い意欲に期待しています。



▲2011年11月24日に生まれたお嬢さんをダッコして嬉しそうなお嬢さん先生。2012年1月9日のフログから。もちろん先生に了解をもらいましたよ(笑い)。

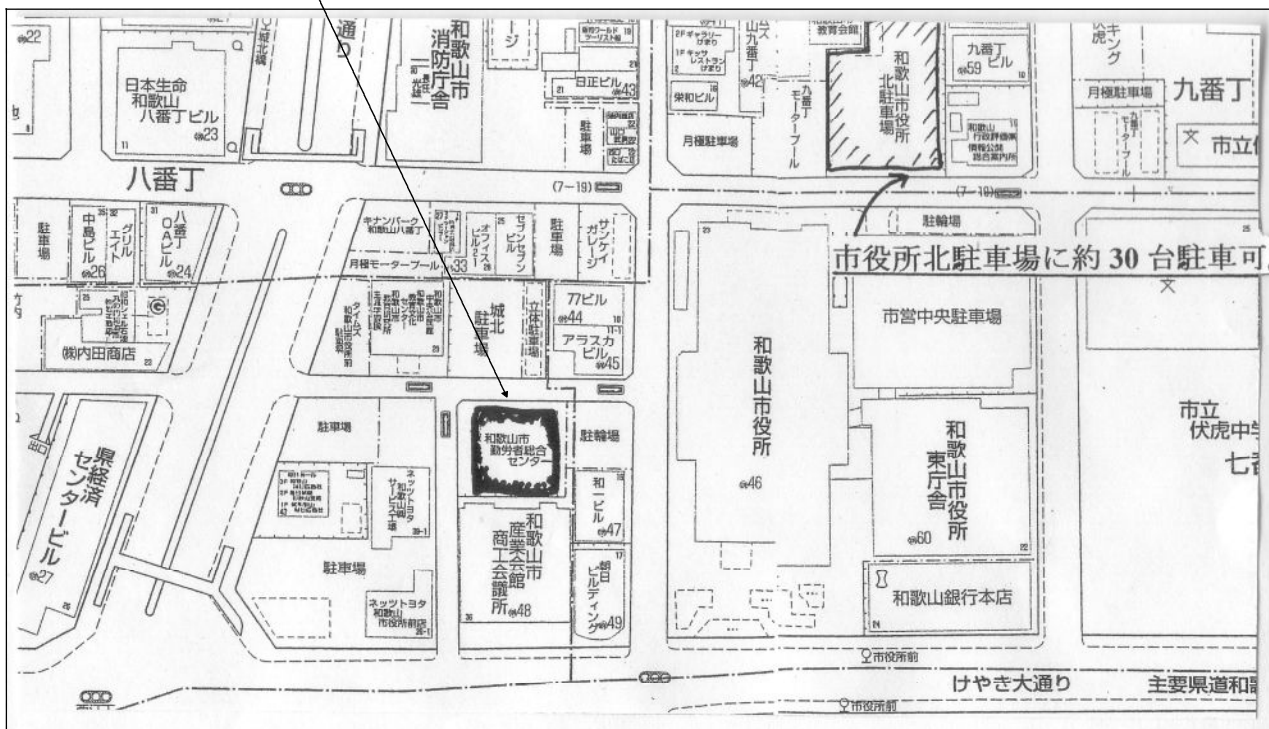
講師紹介 石川康宏氏 1957年北海道生まれ。

立命館大学2部経済学部卒業、京都大学大学院経済学研究科後期博士課程単位取得退学。現在、神戸女学院大学教授(経済学)。専門は、経済理論。

主な著書／『マルクスの思想を今に生かす』(共著、学習の友社、2012年)／『人間の復興か、資本の論理か 3・11以後の日本』(自治体研究社、2011年)／『マルクスのかじり方』(新日本出版社、2011年)／『若者よ、マルクスを読もう』(共著、かもがわ出版、2010年)／『輝いてはたらかたいアナタへ』(共編著、冬弓舎、2009年)／『覇権なき世界を求めて』(新日本出版社、2008年)／『女子大生と学ぼう「慰安婦」問題』(共編著、日本機関紙出版センター、2008年)／『いまこそ、憲法どおりの日本をつくろう!』(日本機関紙出版センター、2007年)／『「慰安婦」と心はひとつ 女子大生はたたかう』(共編著、かもがわ出版、2007年)／『「慰安婦」と出会った女子大生たち』(共編著、新日本出版社、2006年)／『ジェンダーと史的唯物論』(共著、学習の友社、2005年)／『軍事大国化と「構造改革」』(共著、学習の友社、2004年)／『現代を探求する経済学』(新日本出版社、2004年)

【会場MAP】和歌山市勤労者総合センター 6階文化ホール（市役所の西側すぐ）

和歌山市西汀丁34番地 電話073-433-1800(代)



【募集要項】

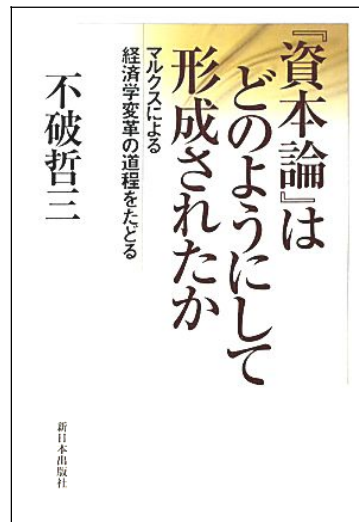
- と き 2012年 3月20日(火・祝)
12:30受付、13:00~16:30講演
- ところ 和歌山市勤労者総合センター6階文化ホール
- 受講料 1,000円
- テキスト 不破哲三著『「資本論」はどのようにして形成されたか』
新日本出版社、2012.1.10発行 2,100円(税込)
但し、受講生で学習協からテキストを購入される方は
2,000円。

申込先：和歌山県勤労者学習協会（学習協）

〒640-8269 和歌山市小松原通3-20 県教育会館2F

TEL(073)432-5505 FAX(073)431-4527 携帯電話090-2040-0618

e-mail wakagaku@m9.dion.ne.jp ホームページ http://www.k2.dion.ne.jp/wakagaku/



石川先生の学習会 参加申込書

ふりがな 氏名		労組 or 職場	
住所		電話(職場/自宅)	

※テキストのいる方は○をつけて下さい。()